



令和3年度第1回定例市議会 開催

10年ぶりの副市長に本間和彦氏選任

高レベル放射性廃棄物の最終処分場の選定に 向けた「文献調査」の撤回を求める意見書 採択！ 選択的夫婦別姓制度の法制化を求める意見書 採択！

3月9日から23日まで開催された、第1回定例市議会での記載の2意見書が採択され、10年ぶりに副市長が選任されました。

◆ ◆ ◆
質問をピックアップしてお伝えします。

◆ ◆ ◆
市民との懇談会でも数多く要望のあったトイレの再整備をすすめたい。

◆ ◆ ◆
民間委託とすることにより、個別指導＋オンライン授業となる。長く英語担当者が欠員だったが、民間事業者へ委託することで、欠員の心配なく安定運営ができる。3年間公設塾を担ってきた地域おこし協力隊の今後の処遇は、希望があれば民間事業者の現地スタッフとして勤務できるようにしたい。

◆ ◆ ◆
夕張メロンの振興について
生産基盤の整備として、(株)ツムラからの企業版ふるさと納税(R3～6年6千万円)を集中的に生産安定・強化にあてる。また、その後についても財源を検討していく。

◆ ◆ ◆
居住誘導について
真谷地の住居集約化により浄化槽を6か所から3か所に減らすことができた。また、南清水沢の民間アパート建設補助などもあり、市全体で10年間で人口が31%減少したが、南清水沢地区は10%の減少にとどまっている。

◆ ◆ ◆
公設塾「キセキノ」の今後について
本市小中学生の学力が、全国・全道平均に至っていないことについて
効果的な授業体系にする。具体的には、教職員の定数加配により、小学校の4・5・6年生の算数を習熟度別の2コースに分けて指導する。

◆ ◆ ◆
雇用労働力の確保について
今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年の中国からの実習生の受け入れめどが立たず、厳しい状況。2月25日に開催した市合同企業説明会にも農協として募集ブースをだしたところ。農業サポーターにも例年以上の応募はあるが受け入れにも限度がある。

◆ ◆ ◆
都市拠点について
若菜地区、清水沢地区、紅葉山地区と

◆ ◆ ◆
土砂災害の危険性が高い地域について
防災講話や防災訓練等を実施する。

◆ ◆ ◆
マルハニチロの工場施設などの借り手・買い手のPR等について
早期の活用について工場訪問など個別に情報提供がら知事に情報提供している。できると

◆ ◆ ◆
地域安心安全活動費補助364万
防と連携し防災人材育成、避難所指定の23施設に防災備品、電気・水道・除雪費3分の2の補助をする。

◆ ◆ ◆
老人福祉会館運営費補助が昨年の倍額500万円
コロナで利用料金が激減のため補助金を増額。

◆ ◆ ◆
税収の減収について
新型コロナウイルスでの減収補填7400万円が国から交付される予定。

◆ ◆ ◆
JR夕張支線補助に3485万円の新規バス車両購入費補助
5台(1台は故障などの予備)必要であり、3台は廃線時に購入したが、以前から使用していたバスが老朽化のため、更新する。利便性の向上で市民との約束である、10往復を維持することが肝要と考えている。(乗車率などから10往復必要かとの質問に対し)持続可能な地域資源として不断に検討していく。

◆ ◆ ◆
コンパクトシティを推進する事業やこれまでの取り組みと課題
人口減が想定を上回っており、インフラの老朽化と土砂災害危険区域など、まちづくりマスタープランを市民とともに作成した。

◆ ◆ ◆
本庁舎の耐震について
本庁舎は、築43年を経過しており、震度6弱で倒壊の恐れがあると診断されている。耐震化工事をするのか、改築をするのかの検討を進めていく。

◆ ◆ ◆
JR夕張支線補助に3485万円の新規バス車両購入費補助
5台(1台は故障などの予備)必要であり、3台は廃線時に購入したが、以前から使用していたバスが老朽化のため、更新する。利便性の向上で市民との約束である、10往復を維持することが肝要と考えている。(乗車率などから10往復必要かとの質問に対し)持続可能な地域資源として不断に検討していく。

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

◆ ◆ ◆
「道の駅メロイド」の魅力向上について

夕張市文化協会 令和2年度三賞授与者決定

3月12日夕張市文化協会は理事会を開催し、令和2年度三賞授与者について次のように決定しました。授与理由は概要で紹介。

【文化協会賞】

高橋 一男 様

昭和40年、足立敏彦氏の尽力により夕張歌人会を結成し、以後夕張歌人会の事務局長として現在に至っている。平成20年より30年まで、夕張市文化協会の副会長として会の運営に協力する。また、30年近く「夕張文化」の編集委員として発刊にかかり、現在に至っている。

【文化協会奨励賞】

滑川 昌子 様

昭和48年4月夕張歌人会に入会し、「新墾」(歌誌)主宰の足立敏彦氏の指導を受け、市民短歌会、新春歌会等の行事を行っている。平成6年4月から平成20年3月まで文化協会の事務局次長(会計)として、以後理事として現在に至っている。

【文化協会奨励賞】

(故)森 剛史 様

夕張市文化協会の活動を深く理解し、愛着を持たれていました。永年にわたり夕張市文化協会の三賞選考委員会の委員としてご協力下さいましたことに、感謝申し上げます。

【市長奨励賞】

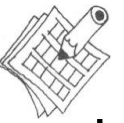
該当なし

【教育長奨励賞】

氏家 和子 様

昭和63年、公民館かな書道講座を受講し、64年に夕張書道連盟に入会し、現在に至っている。平成6年、夕張かな書道同好会を設立した。

昭和63年、公民館かな書道講座を受講し、64年に夕張書道連盟に入会し、現在に至っている。平成6年、夕張かな書道同好会を設立した。



くずさんの 夕張歴史散歩(155)

明治維新 69 朝鮮植民地支配 51

神話にもとづいて日本は神の国、負けない国という意識が、朝鮮蔑視となり征服の歴史が刻まれました。その流れは幕末の混乱の中で征韓論として表れますが、決定的になるのは明治政府が確立して以降です。

「征韓論」について

征韓論ではすぐ西郷隆盛を思い出すでしょう。一八七三年(明治6)西郷は、盟友大久保利通の反対に、官職を捨て野に下り、後に西南戦争で敗れ悲劇の英雄とされています。

では大久保は征韓論に反対だったのか。そうではありません。折からの農民一揆に追われ国内治安を優先させたにすぎません。翌年には大久保らは台湾に出兵し、さらに一八七五年(明治8)には武力をもって朝鮮に「開国」を迫ります(江華島事件)。

幕末の思想家と言われた長州藩の吉田松陰は、「朝鮮を責めて質をいれ貢を奉ること古の盛時のごとくならしめ・・・」と朝鮮を攻めよ、と言っています。同じ長州藩出身で松陰門下の木戸孝允(明治政府の首脳の一人)などは、新政府重鎮岩倉具視に「朝鮮討つべし」と書簡を送っています。*

このように、明治政府発足直後から征韓論を含む海外侵略路線は、主流だったのです。

「脱亜論」が背景に

そして征韓論を正当化するものとして福沢諭吉の「脱亜論」(一八八五年)(明治18)が、その理論的背景となつたのです。また福沢は「朝鮮の交際を論ず」(一八八二年)(明治15)を発表し、公然と武力をもって隣国の文明を助けるのはわが国の責任とまで言い切っています。

* 中塚明著 日本と韓国・朝鮮の歴史 参照



岩渕 友「国会かけある記」
参議院議員
岩 渕 友

政権交代で原発ゼロへ

2月の福島県沖地震に続く20日の宮城県沖地震。相次ぐ地震に不安が募ります。いずれも東日本大震災の余震とのこと。大震災は終わっていません。

大震災と東京電力福島第一原発事故から10年を前後して、座談会や手記、インターネット番組への出演、予算委員会での質問などが相次ぎ、10年間を何度も行ったり来たりしました。強く思うのは原発はいらないということです。

予算委員会で取り上げた原発事故による「ふるさと喪失」という損害。「ふるさと」は場所というだけでなく、生活を営む場であり、地域のコミュニティやお祭りといった文化など、代々受け継いできたものを含んでいます。

家を再建させても、事故前の景色や地域でのつきあいを取り戻すことはできません。それを奪ったのが原発事故なのです。こうした損害への慰謝料が、原発事故をめぐる訴訟で認められるようになってきました。ところが、国も東京電力も認めていません。

東京電力が、新潟県の柏崎刈羽原発への不正侵入防止の機能喪失に代替措置を取っていないか、たという重大問題が明らかになりました。この事態をうけて、衆議院では集中審議が行われ、参議院予算委員会でも質疑が相次ぎました。東京電力に原子力事業者としての資格など到底ありません。水戸地裁が東海第二原発の運転を差し止める判決を出しました。判決に照らせば、全国の原発が再稼働できる状況にありません。政権交代で原発ゼロへ、力を合わせましょう。